

【資料3】 今後の進め方について

デジタル化推進本部事務局
(経営戦略部 情報戦略課)

【振り返りポイント①：DXの推進に向けた共感力】

- 本市が目指す「DXとは」について、共通認識・イメージ共有の視点や共感できるポイントが不足している。
- 意見交換会の事前アンケートで「DXとは」に対する回答に差異があったことを踏まえると、推進本部として改めて整理が必要である。

【振り返りポイント②：DXを全庁一体で進めていく際の目的やプロセスの共有】

- 「目的の共有(本市が目指すDX)」の部分が弱かったため、どうしても庁内全体に「やらされ感」・「負担感」を生み出してしまった点があるのではないか。
- DXについては後進自治体であるとの認識から、とにかく走らなければならないとの意識で、DXにおける「D(デジタル技術・デジタル化)」に必要なツールの導入を重要視してきた。
- 「X=変革」という視点での目的やプロセスの共有が不足していたことが、本市のDXが進まない原因の根底にあるのではないか。

【振り返りポイント③：徹底した議論の不足】

- 「行政のDXを進める上での考え」を踏まえると、事務局として感じている点と共通した意識が多くあることが確認できた。
- この意識を早い段階から共有することができていなかったのは、推進本部として徹底した議論を行えるような準備・環境の提供が不足していたことがその一因であると認識している。
- また、各部局においてDXについて楽しくかつ前向きに検討していただけるような仕掛け・工夫が不足していた。

<DXとはという視点から振り返ってみると>

- 市民起点（市民本位・市民目線）のDXが求められる。
- あらゆる分野・業務がデジタル技術によって再構築される。
- DXの共通的な定義について、まずはみんなで共通化・共感することで、DXのエンジンに。
- 更にDXのアクセルを踏むには、DXの「目的」を上から下まで行き渡らせる必要。
- DXの行きつく先には、これまでの市役所に捉われない、新しい「世界観」や「脱常識」がある。それは、既存業務の延長(改善)では見出せないかもしれない=パラダイムシフト(改革)が必要。
(例：紙の様式をどれだけ最適化しても、紙による手続きである以上、それ以上の新たな価値は見出せない。)
- DX = 「経営」そのものであり、それはルール、組織、予算を変えることである。デジタル技術云々ではない。
 - ⇒経営とは「ルール、組織、予算を変えていくこと」であることが理解されていない。
 - ⇒デジタル技術の動向、世の中(国・企業)の動き、トレンドについてもよく分かっていない。
 - ⇒分からない×分からない=迷子の人もいる。
- これまで住民が「不在」だったプロセスの再設計が必要。どうしたら市民（あるいは職員）は嬉しいんだろう？と新しい価値を生み出す目線が必要であり、人や予算を適切に振り向ける必要がある。
- 価値にフォーカスし、「費用対価値」という考え方を持つ必要。

(1)本市としての「DX」の明確化

- 改めて本市としての「DX」とは何か(定義)を本部員とともに明確化し、イメージ共有を図る。
- この定義については、デジタル強靱化戦略にも明記する。

(2)デジタル強靱化戦略のバージョンアップ

- 上記の定義を踏まえて、デジタル強靱化戦略についても改定・追記を行い、より共感を持てる内容にレベルアップしていく。
- 改定内容のイメージは以下のとおり
 - ・目指す姿、基本方針、施策の柱
 - ⇒ICT、デジタル化等の文言が混在していることから、定義に合わせて改定を行う。
 - ⇒DXの目的を改めて明確化するとともに、デジタル以前に、世の中の変化に応じて、柔軟に経営（ルール、組織、予算）を変えていくなど、変化に強い組織にしていくこと、DXに向けたチャレンジを組織として推奨することなどを盛り込む。
 - ・想定される変化
 - ⇒これまでの取組やデジタル庁などの国の動向も踏まえて修正
- 追記内容のイメージは以下のとおり ⇒ レベルアップ部分
 - ・DX推進(デジタル強靱化戦略)に関する職員としての行動指針
 - ・令和3・4年度取組方針 / 令和5年度以降の取組
 - ・取組の進捗状況や新たな課題等

(3)DXの定義・戦略のバージョンアップのスケジュールイメージ

- 本日の会議以降で、事務局案を整理し、デジタル化推進チームにて議論
- 第6回(2月)、第7回(3月)の本部会議にて議論し、年度内に確定を想定。

(4)令和5年度予算を見据えた取組

- 将来像(ステップ1・2)、重点目標、本部員意見交換、推進員部会、政府方針等々を踏まえ、7月頃に「(仮)DX取組方針」を策定してはどうか。
- ・今年度の取組方針は具体的な取組を進めるうえで一定の効果があったものを認識するが、将来を見据え、それに向けてどう取り組むか、どのような予算が必要か、どのような市民への価値を提供していくかを示せるようなものが必要ではないか。

令和3年度

令和6年度

令和13年度

デジタル強靱化戦略

次期デジタル強靱化戦略

将来像
ステップ1

2・3年後
将来像
ステップ2

改善
変革

改善
変革

- ステップ1・ステップ2を契機・ベースに将来に向けて改善だけでなく、常に市民目線での新たな価値創造に向かって「変革」していく

意識の共有
共感

デジタル強靱化戦略

<改定部分>

- 目指す姿・基本方針・施策の柱

<追加部分>

- DX定義・行動指針・取組方針・課題等

- 各種事業・各種ツールの活用

<デジタル化推進本部員意見交換会>

- 様々なテーマで有識者との意見交換を重ねていき、インプットを増やす。

<デジタル化推進員検討部会>

- 提案されたアイデアをベースに、市民サービス向上に向けた施策の提案

<デジタル化推進員研修>

- DXや各種ツールの利用について、着実なベースアップを図る

(1)第6回本部会議(2月4日(金)or2月8日(火)で調整中)

【議題案】

- オープンデータガイドライン改定版について
- デジタル強靱化戦略の改定(案)について
- デジタルデバイド対策に関する考え方について
- 令和4年度の重点目標について
- 次年度以降の取組について 等

(2)第7回本部会議(3月22日(火))

【議題案】

- 将来像：ステップ2の共有
- オープンデータガイドライン改定版について
- 令和4年度の重点目標について
- 次年度以降の取組について 等